

《特集：平成 13 年度日本薬学図書館協議会研究集会》

新潟大学附属図書館における利用者教育の現状



星 和 夫*

1. はじめに

図書館における利用者教育は、図書館の使い方・施設案内から情報リテラシー教育まで大変幅広い範囲を扱う。『日本医学図書館協会加盟館統計』平成 11 年度結果報告には、「情報サービス」の項目の中に、「利用者教育」を「図書館利用のオリエンテーション」として実施しているかどうか、また、「文献検索法ガイダンス」として実施しているかどうか調査しているものがある。

日本医学図書館協会に加盟している館・室単位での統計で、全調査館 123 館室であるが、表 1 のとおりオリエンテーションはほとんどの館・室で行われている。ガイダンスは少し違う数値となっている。数値の文献検索法ガイダンスを実施していると回答している 79 は大学図書館が実施している数で、病院図書室は実施していない。

大学の図書館単位でみると、ほとんどの館で何らかの文献検索法ガイダンスを実施しているようで、1 年間に 30 回、40 回と開催している大学図書館もあり、最高は九州大学の 50 回であるが、平均では 1 年間に数回となっている。

2. 新潟大学附属図書館実施利用者教育

表 2 は新潟大学附属図書館（以下、当館）が実施している利用者教育の実施状況である。図書館利用指導的なオリエンテーションも含めると 1 年間に数回実施していることがわかる。

では、図書館利用指導的なオリエンテーション

ではなく、文献検索法として当館が実施しているガイダンスの状況をいくつか紹介したい。

2.1. 文献検索法ガイダンス

2.1.1. 中央図書館実施ガイダンス

2.1.1.1. 資料の探し方ガイダンス

中央図書館で実施しているガイダンスで、表 2 の 7 番目にある「資料の探し方ガイダンス」は、1992 年度から始めたガイダンスである。当初は、担当係である参考調査係の係員から、これまで実施してきている図書館利用案内・施設案内のオリエンテーションだけでなく、卒論・論文を書く際の援助ができないだろうか、学生が、必要としている文献をどう探したら効率よく見つけれられるか、その指導ができればうれしいことであり、またそうすることによって、自分達も勉強できる、という提案があったのがきっかけであった。本音は、バラバラに毎日何回も「この資料はどこにあるのか」「この文献がほしいのだからどうすればよいか」挙句の果ては「授業で先生からレポートを書くよう言われたがどう書けばよいのか」などと、学生から質問され、個別の対応に何回も追われているので、これを少なくしたいということであった。

1992 年度から 3 年間は、学部 4 年生、院生を対象として実施したが、1995 年度以後は学部 3 年生以上を対象として実施してきている。

このガイダンスは、ゼミ単位での申込みなので、参加者数に教員の協力が大きく影響する。ガイダンス案内の掲示は図書館や各学部に行き、授業をもっている教員宛てにも依頼文書を出す。教員がゼミの時間をこのガイダンスのために充ててくれると参加人数も増える訳であるが、なかなか、授業時間をさいて、このガイダンスに学生を

* Kazuo HOSHI
新潟大学附属図書館
〒951-8525 新潟市旭町通 1 番町 754 番地
E-mail: khoshi@lib.niigata-u.ac.jp

表1 日本医学図書館協会加盟館利用者教育の状況

利用者教育として「図書館利用のオリエンテーション」を実施している	108
〃 実施していない	15
利用者教育として「文献検索法ガイダンス」を実施している	79
〃 実施していない	44

表2 平成13年度図書館ガイダンス等実施状況

項目	中央図書館	旭町分館
新入生オリエンテーション	3回 (1,802人)	1回 (21人) (専攻科)
夜間主新入生オリエンテーション	1回 (63人)	
学部学生ガイダンス		5日 (260人) (授業)
OPAC利用指導	3日 (68人)	
館内ツアー	3日 (68人)	
留学生ガイダンス	3日 (15人)	
資料の探し方ガイダンス	6週間 (173人)	
スタディスキルズ	6日 (245人)	
新潟県病院図書室研究会研修		1回 (11人)
医学文献の調べ方		○ (院生・研究生・研修生)
看護学文献の調べ方		○ (看護学科2年)
ロシアからの留学生オリエンテーション		○
図書および情報検索		○ (衛生技術学科2年)
放送大学受講生ガイダンス		2回
資料の探し方集中レッスン	2週間	
新潟県看護研修会		1回 (80人)
看護学・助産婦学文献の調べ方		1回 (専攻科学生)

○：未実施

参加させる教員はそう沢山はいない。ゼミの学生が自主的に仲間を集め参加してくるのが実情である。参加者の傾向としては、卒論を必修としている学部学生の参加が圧倒的に多い。

例年5月の連休終了後から7月上旬の約2カ月間、予約制で平日毎日実施している。原則として、1日1回午後3時から約1時間行うのであるが、受講する学生の時間的な都合により時間帯も調整する。また、1日2組以上実施することもある。

ガイダンス内容は文献の検索法から文献の入手までで、具体的な内容としては、受講者によって異なるが、Chemical Abstractsの冊子体およびオンライン検索、雑誌記事索引、新聞記事(HIASK)、Ingenta(uncover)、MEDLINEで文献・記事を探す方法から、電子ジャーナル、ScienceDirect、ProQuestの利用法などを説明す

表3 「資料の探し方ガイダンス」実施状況

項目/実施年度	1996	1997	1998	1999	2000	2001
グループ数	37	48	45	46	41	37
受講者数	282	348	294	329	265	418

る。これまでの実績を表3にまとめてある。毎年300人前後に実施しており、当館の利用者教育の柱でもある。

課題としては、担当する職員が参考調査係の2名だけなので、毎日か1日交代で2カ月間ガイダンスを行うことになり、かなり負担がかかっている。この期間中、休暇がとれないのが一番つらい、そういうことである。また、グループの専門に合わせたガイダンスを行うため、専門分野のツールを用意したり、事前準備の時間もかなりかかる。

2.1.1.2. 「情報検索とその活用」授業

次は「情報検索とその活用」というタイトルで図書館職員が参加した授業についてである。平成8年度から3年間試行ということで実施したこの教養教育科目「情報検索とその活用」は、教室の端末台数の関係から50名の定員で、文科系学部学生2年生以上に限り実施した。後期授業の14コマ、2単位の授業で、教員は理学部、経済学部、人文学部の3名と附属図書館長であり、図書館職員は約8名で毎年顔ぶれは変わった。受講生は表4のとおりであるが、レポート提出者数は、平成8,9年度が36名、10年度が40名であった。

この授業で単位を取れなかった学生は、最後のコマが定期試験と重なり欠席した学生と、パソコンができない学生、この授業を受講するとE-mailアドレスを取得することができるので、その目的を達成して授業を放棄してしまった学生と思われる。

授業の基本的な考え方は次のとおりである。

- ・単なる検索技術の習得だけに終わるのではなく、検索した結果をまとめることも習得させる。
- ・各自が設定したテーマについて、レポートを作成するために文献を検索する。
- ・結果として、当館の情報資源を使いこなす能力を習得させ、ひいては社会生活における情報リテラシーを高める。

授業の構成は表5のとおりであるが、4名の教員による講義はそれぞれ1コマで、文献検索に関するコマ（演習）は主に図書館職員が担当した。

新潟大学のこの授業は、4名の教員が常に出席したことから、図書館職員も前の授業をみておかないとやりづらいので、ほとんどの担当者が毎回参加したというのが特徴である。

表4 「情報検索とその活用」受講者数

学部名	平成8年度	平成9年度	平成10年度
人文学部	10	7	14
教育人間科学部	2	10	10
法学部	33	17	17
経済学部	5	16	9
合計	50	50	50

授業の中身と評価については、本学の大学教育開発研究センターが発行している『大学教育研究年報 第3,4号』²⁾に、平成8年度分と9年度分が掲載されているので詳しい内容は省略するが、授業のポイントを少し紹介する。

学生は、最終的にはレポートを提出するが、まず、検索という一般的・専門的な方法を学生に示し、実習もやってもらう。つぎに、学生に1つのテーマを持ってもらい、そのテーマについて、どんな文献があるか、どんなツールを使って調べたかを求め、文献リストと文献所在リストを作成し、検索過程の自己評価を書き提出すればよく、テーマに関して意見を述べることは不要にしている。検索過程に重点をおいた授業で、検索の仕方が悪いと、思うような論文はヒットしないし、テーマが一般的な場合は沢山すぎてまとまりがつかないなど、テーマの決め方が重要なポイントである。

特色としては、図書館職員が教員と一緒に授業に参画した点、大学紀要をこれもまた教員と一緒に執筆した点である。

図書館職員は授業の経験がないこともあり、授業の前にリハーサルを行い、授業の質を高める努力もしたし、2年目の平成9年度には手作りのテキストを作成し、3年目には本格的なテキスト『情報図書館』³⁾を作成した。また、テキストの検索ツールリストを図書館のホームページに載せ、他の学生にも利用できるようにした。

図書館職員が授業に参画することについて、教員でない図書館職員がどのような資格で勤務時間内に講義に参画できるのかという問い合わせが結構あった。当面3年間の試行であり、教員4名の

表5 平成10年度授業の構成

・第1回	図書館と情報化（講義）
・第2～3回	パソコンの基本機能と操作（演習）
・第4回	E-mailの使い方（演習）
・第5回	学術情報の使い方（講義）
・第6回	インターネット情報検索（演習）
・第7回	情報検索概論（講義と演習）
・第8～10回	雑誌の情報検索（演習）
・第11～12回	図書の情報検索（演習）
・第13回	所蔵検索（演習）
・第14回	まとめ（講義）

指導のもとに、業務の延長として、講義に協力する形をとっている旨の返答をしていたが、これについては特別なクレームはなかった。

3年間という時限つきで行った授業であるが、図書館職員サイドでこの授業を続けるかどうかについて議論した。職員の資質向上にもつながるので続けるべきである、反対に、負担が大きいし、学生の単位に関わるので抵抗感があり、当初の方針どおり3年で終わりにした方がよい、と賛否両論があった。教員も常時出席しており、かなりの負担を感じていたようで、図書館長は続けたかったようであるが、一応終わることにした。

3年間の授業を今後どう生かすかについては、図書館利用者教育を強化することが大事であると、反省会で職員の一致した意見であった。

2.1.1.3. 資料の探し方集中レッスン

これまで実施してきた授業の発展的解消をうけ、これを補強する目的と、春に毎年実施してきている「資料の探し方ガイダンス」の再編を考える際の検討材料として平成11年度から新たに開始した。

あらかじめ用意したメニューに個人が自由に参加でき、1コマ30分であるが実習もできるようにした。1日5～8コマを用意し、若手職員の育成を考えながら、ベテラン職員と若手を組み合わせコマの担当を決め、11月中旬の2週間、集中的に実施してきている。メニューは表6のとおりであるが、例えば、「新大」は日本十進分類表を

使って主題ごとの図書の所在を知る方法や、OPACの使い方を説明し当館の所蔵図書を検索する内容である。CAはChemical Abstractsの検索実習である。個々の内容の説明は省略するが、中央図書館を利用する学生が文献検索をする際の、利用するであろうツールの実習である。

実績の比較を表7に示しておいた。平成11年度より12年度は受講者数が減っているが、11年度に受講した学生が12年度は受講しないことや、宣伝不足も原因であったかも知れない。

今年も実施するが、昨年受講した学生のアンケートの中で、もっと宣伝を活発にしないとだめである、知らない学生が多いとあるので、この辺を工夫しながら実施することになっている。

2.1.2. 旭町分館実施ガイダンス

2.1.2.1. 医学・看護学関係文献の調べ方

これは授業のコマを使った文献検索で、各大学でも行っている学生に対しての利用者教育であり、中央図書館で行っている学生への「資料の探し方ガイダンス」の医学版である。文献検索を依頼してくる学部学科と学年によってそれぞれ使うツールは異なるが、医学、歯学、看護学など専門分野が決まっているので、医学中央雑誌、MEDLINE、ProQuest、SD-21などを使い、文献の調べ方とその文献の入手方法を説明する。1999年のデータを表8に示しておいたが、年に数回実施している。

以前までは、MEDLINEと医中誌をしっかりと

表6 平成12年度「資料の探し方集中レッスン」時間割メニュー

第1週 11月6日(月)～11月10日(金)

時間帯	11/6	11/6	11/7	11/7	11/8	11/8	11/9	11/9	11/10	11/10
13:10～13:40	新大		新大		新大		図書		図書	
13:50～14:20	雑誌		雑誌		図書		雑誌		新大	
14:30～15:00	図書		図書		雑誌		新大		雑誌	
15:10～15:40	新聞	文速	新聞	文速	新聞	文速	新聞	文速	新聞	文速

第2週 11月13日(月)～11月17日(金)

時間帯	11/13	11/13	11/14	11/14	11/15	11/15	11/16	11/16	11/17	11/17
13:10～13:40	雑誌	CA	雑誌	Med	雑誌	Med	教育	CA	文速	Med
13:50～14:20	東古	CAcd	文速	BA	図書	自然	新聞	CAcd	図書	BA
14:30～15:00	教育	文速	教育	CA	新聞	CA	雑誌	自然	経済	CA
15:10～15:40	人社	Med	東古	CAcd	経済	CAcd	人社	Pmed	人社	CAcd

表7 実績比較表

事項	平成 11 年度	平成 12 年度
実施期間	2 週間：11 月 8 日～11 月 19 日	2 週間：11 月 6 日～11 月 17 日
種類数	15 種類	15 種類
コマ数	69 コマ	65 コマ
受講者純数	153 名	88 名
受講者延べ数	388 名	260 名
担当者数	11 名	14 名
受付	予約より当日受講者が中心 窓口受付	ほとんど予約者 窓口受付、メール受付
授業との関係	授業での受講あり (受講者数に含む)	授業は 2 グループあり (受講者数に含まず)

表8 1999 年度文献検索講習会実績

学部・学科	受講者数
医学部	2 回, 60 名
歯学部	2 回, 120 名
医短看護学科	3 回, 160 名
医短衛生学科	2 回, 40 名
医短専攻科	1 回, 20 名
院生・研修医	1 回, 15 名

指導すればそれですんでいたが、最近、電子ジャーナルの利用法が加わっている。

2.1.2.2. 新潟県病院図書室研究会研修

少し特殊な例であるが、新潟県病院図書室研究会が毎年行っている研修会に、旭町分館職員が講師として参加している病院図書室職員を対象にした利用者教育がある。新潟県下の病院には、新潟大学の医師が多く派遣されているので、病院図書室との関係も深い。一般市民への開放ということで、平成 12 年度から市民へ貸し出しを開始したが、それ以前から病院図書室には特別に雑誌や図書の貸し出しを行っている。講演を依頼されると、病院図書室の職員の援助もしてあげたい、また、職員自身の勉強にもなるということから、引き受けてきている。

この研究会には、新潟県下の病院図書室 18 施設約 20 名ほどの会員があり、会員は互いに連絡をとりながら、病院図書室をより良いものにしようとして頑張っている。これまで旭町分館が研修会にかかわってきた内容を表 9 にまとめている。

昭和 63 年からほぼ毎年のように講演を依頼さ

れており、テーマは病院図書室研究会からの依頼で決まるが、当初は、図書や雑誌の整理方法であったが、最近インターネットや電子ジャーナルに関心がいっているようである。

参加者は、会員でない人も参加しており、実習は本当に熱心に行っている。

平日、旭町分館以外の会場で開催すると当然ながら休暇で無料奉仕となる。

2.1.2.3. 新潟県看護研修会

新潟県看護研修会は、平成 5 年度から日本看護協会と各県看護協会が連携して看護管理の研修を実施し、単位を取る研修会である。旭町分館は平成 8 年から依頼を受け、「文献検索と図書館の活用」という内容で実習を行っている。表向きは当然教員の補助であるが、こういうテーマなので、図書館職員が中心とならざるを得ない。毎年新潟県看護協会から本学医学部看護学科の教員に依頼があり、この教員から旭町分館に依頼がくる。この研修会で図書館を利用して行う実習は、土曜日であるが、旭町分館は開館しているので、資料やパソコンを使え、かつ学生の利用が少なく研修会を行いやすい環境である。

婦長をめざす看護婦さんを対象とした研修会なので、80 名と多数の参加者であるが皆熱心の実習を行っている。実習内容は、旭町分館の利用の仕方、分館資料を使つての演習で、中心は、医学中央雑誌、MEDLINE を使つての演習である。

3. 当館利用者教育の課題

一般に、利用者教育はオリエンテーション、ガ

表9 新潟県病院図書室研究会研修内容 (旭町分館職員講演分)

開催年月	研修会内容	開催場所	参加者数
S 63.11	医学図書の分類について	新潟市民病院	14 名
H 1.10	雑誌の製本について	信楽病院	11 名
H 3.3	文献および事項の探し方, 確認の仕方	旭町分館	14 名
H 3.11	新潟大学附属図書館旭町分館における単行本と雑誌	新潟市民病院	14 名
H 4.11	新潟大学附属図書館旭町分館での図書受入, 整理業務処理の流れ	木戸病院	11 名
H 6.5	① CD-ROM を使った文献検索の仕方と演習 ②相互貸借, その方法および旭町分館への FAX 依頼の仕方	旭町分館	13 名
H 7.5	CD PLUS 社の MEDLINE 検索とインターネットの紹介	旭町分館	20 名
H 8.5	看護部門の文献検索と文献の取り寄せ方	旭町分館	23 名
H 9.5	インターネットを利用した医学情報の収集	旭町分館	17 名
H 10.11	旭町分館における受入雑誌の現状	旭町分館	15 名
H 12.6	インターネットによる文献検索—医学中央雑誌, PubMed の演習	旭町分館	18 名
H 13.6	新潟大学附属図書館における電子ジャーナル	旭町分館	11 名

イダンス, 専門探索指導と三段階で考えられている⁴⁾。当館の場合は, ガイダンスと専門探索指導の区別ははっきりしていない。

本学で実施している利用者教育の多くは一般的情報探索指導としてのガイダンスを交えながら専門探索指導を行っている。今後は体系的に区別された利用者教育を考えていかなければならない。

利用者教育を担当する職員は, 中央図書館で実施している「資料の探し方集中レッスン」の事前打合せ会や勉強会で経験を積む努力をしているが, ベテランから新人へという教育体制を作っていく必要がある。幸い, 当館には若手の職員 6 名で「勉強会」(毎月 1 回, 時間外の夜 2 時間)を組織し, 自主的に図書館についての学習をやっている。当館ホームページの『資料の探し方』リーフレット集はこの若手職員の作である。

4. ま と め

「情報リテラシー教育」ということを理論的バックボーンにしているアメリカの大学の例もある。しかし, 人が減り, 仕事量が増えている中で, 現実的な方法を考える必要がある。

大学教育における図書館利用者教育の位置付けの必要性和大学全体の認識がないとなかなかうま

く事が運ばないと感じている。

各大学図書館のホームページを見ると, ホームページ上での利用者教育を展開している図書館もかなりあり, これからはその方法も模索する必要があるのではないかな。

以上, 当館における利用者教育の取り組みの実態を紹介した。今後数年間は, 試行錯誤をくりかえす時期ではないかと感じている。授業への参画などという大げさな利用者教育の例より, 自館の事情に合わせた取り組みとして, ヒントになるようなものが少しでもあれば幸いである。

参 考 文 献

- 1) 第 71 次日本医学図書館協会加盟館統計 (平成 11 年 4 月～平成 12 年 3 月). 日本医学図書館協会編, 東京, 2000, p. 61-75.
- 2) 「情報検索とその活用」講義担当グループ: 教養科目「情報検索とその活用」の講義実践報告. 大学教育研究年報, 3, 86-93, 1997.
「情報検索とその活用」講義担当グループ: 教養科目「情報検索とその活用」に関する二年目の報告. 大学教育研究年報, 4, 174-180, 1998.
- 3) 情報図書館: 大学で役立つ情報検索法. 新潟大学附属図書館「情報検索とその活用」編集委員会編, 新潟, 1998.
- 4) 岩猿敏生他: 大学図書館の管理と運営. 東京, 日本図書館協会, 1992.

(原稿受付: 2001.10.31)